

令和7年度第6回東大和市社会教育委員会 会議要録

1. 会議日時

令和7年10月21日（火）午前10時から正午まで

2. 会議場所

中央公民館 301 学習室

3. 出席者

(1) 社会教育委員（6名）

池田議長、外池副議長、橋本委員、杉本委員、森脇委員、半田委員

(2) 事務局（2名）

神山生涯学習課文化生涯学習担当係長、荻沢生涯学習課主事

4. 欠席者

大島委員、藤井委員、才郷委員

5. 会議の公開・非公開

公開

6. 傍聴者

0名

7. 議題

(1) 令和6年度社会教育関係決算報告について

(2) 研究テーマについて

(3) その他

8. 会議資料

資料：各委員から提出のあった提言原稿

資料：令和6年度社会教育関係決算資料

資料：令和7年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第2ブロック研修会開催要項

9. 議事内容

(1) 令和6年度社会教育関係決算報告について

事務局より令和6年度社会教育関係決算について報告が行われた。

【概要】

①令和6年度の一般会計歳出総額 376 億 4,839 万円のうち、教育費は 32 億 5,545 万円で約 9%を占める。

②32 億 5,545 万円の教育費のうち社会教育費は 6 億 9,480 万円で約 21%を占める。

③社会教育費の主な特徴として、市民会館の大規模改修に向けた実施設計委託、公民館地区館への Wi-Fi 環境の整備、郷土博物館のデジタルプラネタリウム投影システム賃借などが挙げられた。

委員からの質問等無し。

(2) 研究テーマについて

各委員が以下の研究テーマに関する進捗状況を報告し、それに基づく意見交換を行った。

テーマ1

「一人暮らし高齢者に関わる課題」

【概要】

- ①一人暮らし高齢者自身の意識を変えたい。
一人で悩まず、「希望、楽しみを求め、生きていれば人は輝く」という気持ちを持ってもらいたい。
- ②プラス志向で幸福を求め、各世代と積極的に交流し、共に協力し合う。
特に高齢者は、若者との交流を大切にできると良い。
- ③行政、地域全体で連携し、高齢者を温かく見守る。
地域、家庭、民間企業等が一体となって高齢者を見守ることが大切である。

【意見】

・委員

高齢者の居場所をどう提供するかが大切である。サロンのようにテーマを決めずに月数回集まることで高齢者間の交流が生まれる。一度行くまでのハードルが高いが、行ってみたら楽しく何度も通うようになるのではないか。

・議長

高架下の夜市を開催したが、様々な年齢の方が反応してくれた。「駅前で開催したから来やすい」と高齢女性からお声をいただいた。また、盲目のあるグループも「駅前であれば参加できる」と喜んでいて、いろいろな人が寄れる場所を提供することが大切である。高架下の夜市は、これまで飲食と音楽を中心としてきたが、今後は絵画を入れるのも良いと思っている。会場も東大和市駅前以外でもやってみたいと考えている。課題は、最初の一步、参加しづらいとってしまう点である。自由に参加でき、気軽に足を運んでもらえる仕組みを構築することが大切である。先日、総合防災訓練が開催されたが、市民は市職員のための訓練という認識であり、参加しにくいと感じてしまった。

・委員

高齢者は一人では行動に起こしにくい。後押ししてくれるきっかけ作りや声掛けが必要である。近所づきあい、コミュニケーションがその解決の根本になるのではないか。1度参加をすれば、2回目以降は容易い。

・議長

防災訓練では、1,000円はすると思われる防災グッズ（応急給水キットや乾パン）をもらえる。ちょっとした知るきっかけ、そのきっかけを与えてくれるコミュニティづくりが大切である。

・委員

近所におしゃべりサロンがあるが、中に入ることに勇気がいる。

・委員

高齢者のひきこもりが課題である。骨折等がひきこもりのきっかけになることもある。福祉サービスを利用していない人をいかに引き込むかが重要である。行政や福祉関係者が状態を把握している高齢者は良いのだが、そもそも把握できていない単身の高齢者は要注意である。

・議長

高齢者の中でも、女性の方が元々コミュニティを持っているため、男性と比較して引きこもりは少ないのではないかと考える。ゴミ屋敷化してしまう男性宅も増えている。

- ・委員
高齢福祉と障害福祉の連携として、障害者就労施設が高齢者宅を見回る構想があるが実現はしていない。
- ・委員
湖畔の坂の歩道と車道の境目について、傾斜があり危険との声を聴いた。
- ・委員
地域（自治会）で要配慮高齢者は把握しているが、どう接していけば分からない。
- ・委員
スポーツ協会の各会員に対して近所の方を誘ってもらい、スポーツ活動に引っ張ってきってもらうことを期待している。スポーツをやっている会員は“おせっかいさん”が多いと考えている。ただし、これらの活動を義務化にするのは良くない。ボランティア、広い意味の社会教育の取組としてやっていきたい。自分の立場を広く活用して貢献していきたい。
- ・議長
発信することで新たな気づきが生まれるかもしれない。
- ・委員
“ミニコミュニティ”と呼ぶべき、隣近所レベルの最小のコミュニティ作りが大切ではないか。スポーツの中には、ゲートボールやラジオ体操もある。身近なものなので、引き込みやすい。
- ・議長
公園の使い方の見直しをしてほしい（最近貼紙でサッカーやボール投げ等子どもの遊びが禁止されていることが多い）。禁止するのではなく、公園で遊ぶ子どもには、赤ちゃんや高齢者への配慮の気持ちを学んでほしい。

テーマ2

「地域住民・学校・自治会等との連携を通じた“身近な安全”の確保」

【概要】

- ①東大和南街まっりの事例
子どもたちが清掃ボランティア等として地域に協力。世代を超えた取組を紹介する。
- ②高架下の夜市の事例
地元の商店街との協働連携について紹介
- ③今後の提言
 - ・教育と防災の融合
 - ・地域協働の仕組みづくり
 - ・多様な住民参加の促進
 - ・社会教育による啓発活動の強化

【意見】

- ・委員
東大和市では、コミュニティスクールは学校単位完結になっている。そのため、全校共同での研修の実施や全校にコーディネーター（有償）を配置する等の取組を、教育委員会が主導して実施してほしい。

テーマ3

「外国人住民の防災防犯について」

【概要】

①現状

外国人住民増加に伴う社会生活上の問題を考察する。

②課題

外国人住民は災害時の対応を十分に理解しているか。

防犯面における外国文化と日本文化の違い（例：玄関ドアの鍵の考え方の違い）。

③「日本語の会」の活動（事例）

外国人を対象に日本語を教える公民館活動団体である。

活動の中で外国人会員は避難所に関する知識が無いことが判明した。

本会が「暮らしの便利帳」の多言語化を市に要望したが、実現に至っていない。

④住民同士のつながり

外国人住民と近隣住民を繋ぐ取組を紹介したい。（例：蔵敷公民館における『外国人と市民との交流会』）

⑤まとめ

外国人住民も市民もストレス無く過ごすためのシステムづくりが必要である。

今回提示した提言案に社会教育の観点からを追記していく。

※日本語の会の様子の写真使用については、事務局が先方に確認する。

【意見】

・議長

日本人ファーストという言葉が独り歩きして、外国人子どもの差別につながるという社会問題が起きている。言葉の壁が課題である。

外国人と共に教育を受けるということは、勉強だけでは学べない貴重なことと捉えられる。

・委員

肌の色を理由とした意図的な外国人差別もあると聞いている。

(3) その他

①事務局から荒川前議長が令和7年度東京都功労者表彰を受賞されたことを報告した。

②令和7年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第2ブロック研修会への出欠確認。

参加予定者（5名）：池田議長、外池副議長、杉本委員、半田委員、森脇委員

③副議長によるまとめ

・令和6年度社会教育関係決算報告について

施設の老朽化対策が大変であるということが分かった。公民館へのWi-Fi環境整備等、市民の利便性向上に寄与しているものもあった。

・研究テーマについて

各委員から研究テーマの報告があった。11月及び12月の会議で各委員の提言案に対して委員の意見をいただきながら作成し、年内には各委員の提言が出揃う状態にしたい。そして、出揃ってから必要な修正を入れて精査していきたい。

④次回会議日程

令和7年11月18日（火）午前10時からで、場所は中央公民館視聴覚室である。

以上